

令和3年9月14日
教育会館2階大会議室

坂出市学校再編整備検討委員会（第2回）

会 議 次 第

1. 開 会

2. 教育長挨拶

3. 議 事

(1) 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の

中間報告について

(2) 児童数の将来予測について

(3) 小規模校のメリット・デメリットについて

(4) 教職員用アンケートについて

(5) その他

4. 閉 会

1人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、新しい時代の学校施設の在り方を議論

1. 新しい時代の学びの姿

(1) 社会情勢の変化
 ⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
 ⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

(2) 「令和の日本型学校教育」の姿
 学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現

(3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- 新学習指導要領の着実な実施
- 9年間を見通した義務教育の在り方
- GIGAスクール構想、ICTの活用
- 地域社会や関係機関等との連携・協働
- 少人数による指導体制の整備
- インクルーシブ教育システムの構築

2. 学校施設の課題

(1) 学校施設という実空間の価値を捉え直す

●ポストコロナ時代における学校施設の役割
 ⇒児童生徒にとって安全・安心な居場所を提供するという福祉的機能、児童生徒の社会性・人間性を育む社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識
 ⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、生活する学校施設という実空間の価値を捉え直す必要

●学びのスタイルの変容への対応
 ⇒ICTの活用により、学級単位で一つの空間で一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイルだけでなく、学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大

(2) 学校施設における現状と課題

- 機能面等：教室面積、多目的スペース、空調設備、トイレ等の整備状況等
- 安全面等：耐震対策・老朽化した施設の実態、防災機能の状況等
- マネジメント等：適正規模・適正配置の実態、複合化・集約化の状況等

3. 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

学校施設の姿（ビジョン）
Schools for the Future
「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として創造する

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び ⇒個別最適な学びと協働的な学びに対し、柔軟で創造的な学習空間を実現
 ⇒学習空間を、均質で画一的なものから柔軟で創造的なものに転換
 (教室空間の改善・充実の例)
 ・1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備
 ・多目的スペースの活用による多様な学習活動へのフレキシブルな対応
 ・ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用
 ⇒読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備（ラーニング・ゼンズ）
 ⇒教職員の教材製作空間、コミュニケーション・リアルツシユの場（ラウンジ）の整備

生活 ⇒新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現
 ⇒居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
 ⇒空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創 ⇒地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現
 ⇒地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
 ⇒地域活性化等の観点から、他の公共施設等との複合化・共用化等を促進

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全 ⇒子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現
 ⇒老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
 ⇒避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境 ⇒脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現
 ⇒屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進
 ⇒環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

生活 共創 学び 安全 環境

これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿

4. 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の推進方策

(1) 学校設置者における推進方策

●長寿命化改修を通じ、新しい時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策を一体的に推進
 ⇒安全・安心な教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びに対応していくため、長寿命化改修等を通じ、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を積極的に推進
 (教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備例)
 ・余裕教室活用型（3教室分を2学級分のゆとりのある空間として利用）
 ・改修＋一部増築型（改修と合わせた一部増築により不足するスペースを確保）
 ・家具配置工夫型（家具配置の工夫による教室のゆとり確保、教室と連続した空間の活用）
 ・特別教室コンバージョン型（教科に捉われない創造的な学びの空間に転換）等

●首長部局と協働し、中長期視点から計画的・効率的な整備を推進
 ⇒まちづくり部局や財政部局等の首長部局との横断的な検討体制を構築
 ⇒中長期的な将来推計を踏まえ、計画的・効率的な施設整備を推進（将来変化に柔軟に対応できる施設、将来的な他用途への転用、複合化・共用化など）

●多様な整備手法等も活用し、施設整備と維持管理を着実に推進
 ⇒PPP/PFI手法を含め、民間活力を活用した施設整備・維持管理を積極的に推進

●学校関係者等の参画により、豊かな学びの環境整備を推進
 ⇒設計者と学校関係者が参画した施設づくりを促進（ポイント・サール方式の導入促進等）

(2) 国としての推進方策

●学校スタンダードの提示
 ⇒具体的な学校施設の姿（ビジョン）を提示

●学校施設整備の優先度の可視化と計画的・効率的整備の促進
 ⇒短期的に対応すべきもの、中長期的な入パンで取り組むべきものを整理
 ⇒横断的な検討体制を構築した計画的・効率的な整備の推進

●学校施設整備推進のための財政支援制度の見直し・充実
 ⇒財政支援について、制度的な充実を図り、必要な予算を確保

●学校施設整備推進のためのプラットフォームの構築
 ⇒新しい学びに対応した学校施設整備を着実に推進するため、以下の機能を有するプラットフォームを構築
 ・具体的な実践につながる整備事例・ノウハウの蓄積・発信
 ・「学校建築アドバイザー」など専門家による相談体制の構築
 ・好事例を着実に横展開するための現場同士のネットワーク化

●先導的モデル研究を通じた新たな学校施設モデルの提示
 ⇒「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」の成果等を踏まえ、具体的・実践的な学校施設モデルを提示

●学校施設整備指針の改訂

児童生徒数の推移及び推計

- ・ 児童生徒数は、第1次ベビーブームの1950年代をピークに減少し、その後、第2次ベビーブームの1980年代に再度ピークを迎えますが、総人口の減少に伴い1990年代以降、減少しています。
- ・ 2021年の児童数は2,181人、生徒数が1,122人ですが、10年後の2031年にはそれぞれ1,580人、847人^{※1}と約7～8割になると推計しています。

※1 2021年の児童生徒数が、将来の出生数から想定した児童生徒数に対して、その割合を算出し、児童生徒数の推計値を算出している。なお、将来の出生数は、過去18年の出生数を基に回帰分析で算出しています。

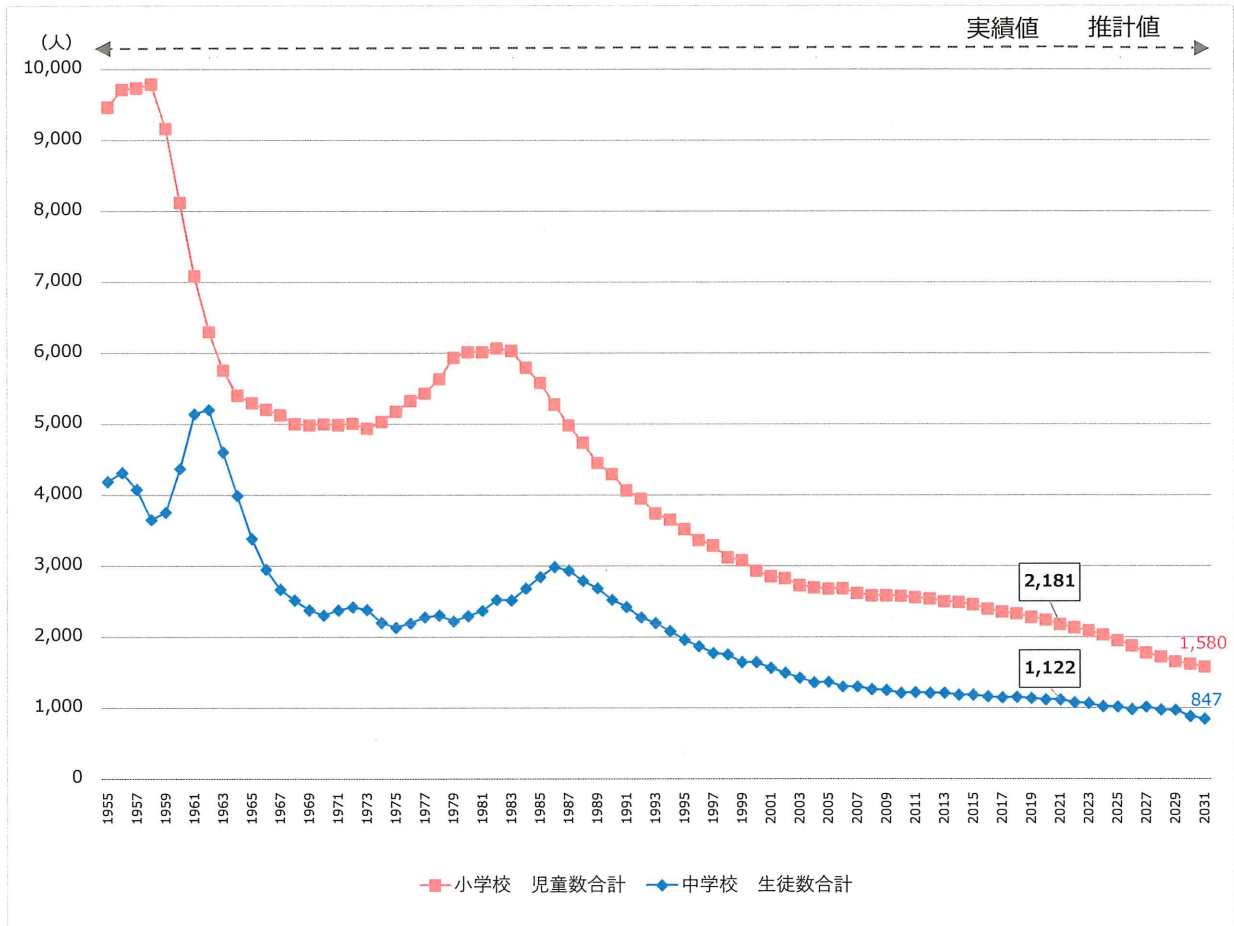


図 児童生徒数の推移及び推計

(実績値：坂出市教育委員会データ、推計値：坂出市の出生数及び、出生数の回帰分析に基づく推計値)

2022年～2031年の児童生徒数の推計値

年	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
児童数(人)	2,135	2,092	2,035	1,950	1,880	1,781	1,722	1,655	1,624	1,580
生徒数(人)	1,080	1,070	1,023	1,021	985	1,020	978	974	886	847

住基の人口

年度	人数
2020	268
2019	308
2018	312
2017	326
2016	378
2015	365
2014	405
2013	410
2012	380
2011	409
2010	441
2009	410
2008	462
2007	440
2006	440
2005	461

回帰分析による出生数予測

年度	過去15年の実績		過去10年の実績		過去5年の実績	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数
2005	461					
2006	440					
2007	440					
2008	462					
2009	410					
2010	441					
2011	409	409				
2012	380	380				
2013	410	410				
2014	405	405				
2015	365	365				
2016	378	378				378
2017	326	326				326
2018	312	312				312
2019	308	308				308
2020	268	268				268
2021	288.3	273.2				247.0
2022	276.4	258.1				223.2
2023	264.5	243.1				199.4
2024	252.6	228.0				175.6
2025	240.7	212.9				151.8
2026	228.8	197.8				128.0
2027	216.9	182.8				104.2
2028	205.0	167.7				80.4
2029	193.1	152.6				56.6
2030	181.2	137.5				32.8

2021年度出生数	
4月	19
5月	22
6月	19
7月	16
計	76

予測 228

回帰分析とは、結果となる数値と、その要因となる数値の関係を調べて、それぞれの関係を明らかにする統計的手法である。

要因となる数値を「説明変数」といい、結果となる数値を「被説明変数」という。
回帰分析は、事象の予測・シミュレーション、検証、要因分析などを行うときに用いられる。

○計算式は、

$$(単回帰分析) y = a + bx$$

の式(回帰式)で表される。

今回の児童数の予測では、年齢(時間の経過)を横軸(X=説明変数)とし、児童数を縦軸(Y=被説明変数)で回帰式を求めたものである。

小規模校におけるメリット・デメリット

※ 学校規模が小さいほど、以下の傾向が強くあらわれるものと考えられます。

区 分	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
◎学習・指導面での観点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの個性や特性に応じてきめ細やかな指導がしやす。(特に各教科の技能習得場面において効果が大きい。) ○ 教材や教具の割当が多く、特別教室も十分活用できる。 ○ 校外学習等で児童生徒の行動を掌握しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒同士及び教師からの情報量が少なく、多様な考えや意見とふれ合い、互いに学び合う経験がしづらい。 ● 総合学習等において多様なグループ分けが難しくなる。 ● 中学校の選択教科で、履修の選択幅が小さく、生徒の特性や興味に対応できにくい。 ● 体育では、サッカーやバレーなどの人数が必要な競技ができない。 ● 成績が序列化しやすい。
学校行事・クラブ活動等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事で出場や発表機会に恵まれる。 ○ 選択幅は小さいが自分の入りたいクラブに入部しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動会では団体競技が難しく、種目や内容が制限される。 ● クラブ活動や部活動の種類が限られてくる。
◎子どもの生活面での観点		
人間関係・集団生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒、教員、保護者、地域住民それぞれがお互いをよく知り、結びつきが深い。 ○ 児童生徒にとって、自分のことを理解してもらえという安心感が得やすい。 ○ 一人が担う部分が多いため、工夫・協力し合うことでやり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間関係が固定化・序列化しやすい。 ● 学級編制が固定化し、人間関係が破綻すると修復が非常に困難で、序列化した人間関係が継続しやすい。 ● 適度な刺激や切磋琢磨の機会が少なくなる恐れがある。 ● 多様な物の見方や価値観に触れる機会が少なく、一律的

	<p>甲斐が生まれ、自己有用感が高まる。</p> <p>○ 全学年交流や複数学年合同の取組みや交流ができやすく、異年齢同士の子どもとの関係が密になる。</p> <p>○ 全校一体の活動がしやすく、団体行動がしやすい。</p>	<p>になりやすい。</p> <p>● 役割が固定化し、集団における役割の変化が乏しくなりやすい。</p>
<p>◎学校運営の観点</p> <p>組織運営・危機管理</p>	<p>○ 学校全体の業務を考えての協力体制がとりやすい。</p> <p>○ 全校行事の実施計画を立てやすく、集合や移動に時間がかからず、校庭や体育館で全校一斉活動ができる。</p> <p>○ P T A活動では、家庭的雰囲気の中で連携がしやすく、学校への関心が高まり、協力も得やすく、地域に根差した教育を推進しやすい。</p>	<p>● 全校一体の活動がスケールの小さいものになる。</p> <p>● 教職員数が少なく、緊急時や出張時等に代わりとなる教職員がおらず、対応が不十分となる可能性がある。</p> <p>● 教職員数が少ないため、校務分掌の負担が過重となる。</p>

◎総合的な観点

小規模校では、学校での学習や運動などにおいて、一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細やかな指導が実現できるなどのメリットがある。しかしながら、集団生活の中で互いに競争して切磋琢磨したり、集団生活における規律や規範意識を学んだりする機会が少ないことにより、進学先の学校や社会などの大きな集団において、個性や長所を十分に発揮できにくくなる傾向があるなどのデメリットが指摘されており、ある程度の規模（適正規模）による学校教育が必要と思われる。

学校施設の今後のあり方を考えるアンケート調査票（案）

【教職員用】

注：該当する番号を〔 〕の中に記入してください。該当する番号が無い場合は『その他』を選び、（ ）がある場合は（ ）内に具体的な内容を記入してください。
また、全ての設間にお答えください。

【あなたの現在お勤めの小・中学校について】

問 1 あなたが現在お勤めの小・中学校はどこですか。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ①坂出小学校 | ②東部小学校 | ③金山小学校 | ④西庄小学校 | ⑤林田小学校 |
| ⑥加茂小学校 | ⑦府中小学校 | ⑧川津小学校 | ⑨松山小学校 | ⑩瀬居小学校 |
| ⑪坂出中学校 | ⑫東部中学校 | ⑬白峰中学校 | ⑭瀬居中学校 | |

問 1 []

【学校規模・学級数について】

問 2 国の目安としては、「学級数がおおむね12学級～18学級（小学校：1学年あたり2～3学級，中学校：1学年あたり4～6学級）までであること」とありますが，1学年あたりの学級数は，どれくらいが望ましいと思いますか。

- (1) 小学校の1学年あたりの望ましい学級数
- | | |
|------------|------------|
| ① 1学級がよい | ② 2～3学級がよい |
| ③ 4～5学級がよい | ④ 6学級以上がよい |

問 2 (1) []

その理由を具体的に記入してください。

- (2) 中学校の1学年あたりの望ましい学級数
- | | |
|------------|------------|
| ① 1学級がよい | ② 2～3学級がよい |
| ③ 4～5学級がよい | ④ 6学級以上がよい |

問 2 (2) []

- (6) 児童生徒同士の競い合い（切磋琢磨）などの機会が少ない
 ①そう思う ②どちらとも言えない ③そうは思わない
 問 4 (6) []
- (7) スポーツや音楽などの集団活動に制約を受ける
 ①そう思う ②どちらとも言えない ③そうは思わない
 問 4 (7) []
- (8) 集団の中での協調性や適応力が育ちにくい
 ①そう思う ②どちらとも言えない ③そうは思わない
 問 4 (8) []

【通学距離について】

問 5 国の目安としては、「通学距離が小学校にあつてはおおむね4 km以内、中学校にあつてはおおむね6 km以内であること」とあります。
 通学距離は、どれくらいまでが適当だと思いますか。

- (1) 小学校の通学距離について
 ①通学距離は、1 km程度までが適当である（徒歩約15分圏内）
 ②通学距離は、2 km程度までが適当である（徒歩約30分圏内）
 ③通学距離は、3 km程度までが適当である（徒歩約45分圏内）
 ④通学距離は、4 km程度までが適当である（徒歩約60分圏内）
 ⑤通学手段が確保されていれば、通学距離にこだわらない
 ⑥その他（ ）
 問 5 (1) []
- (2) 中学校の通学距離について（自転車通学含む）
 ①通学距離は、2 km程度までが適当である
 ②通学距離は、3 km程度までが適当である
 ③通学距離は、4 km程度までが適当である
 ④通学距離は、5 km程度までが適当である
 ⑤通学距離は、6 km程度までが適当である
 ⑥通学手段が確保されていれば、通学距離にこだわらない
 ⑦その他（ ）
 問 5 (2) []

【通学方法について】

問 6

通学距離が「小学校にあつてはおおむね4 km, 中学校にあつてはおおむね6 km
であること」を超える場合の通学方法についての質問です。

通学方法は何が望ましいと思いますか。

(1) 小学校の望ましい通学方法について

①公共交通機関等で通学する (スクールバス等も含む)

②その他 ()

問 6 (1) []

(2) 中学校の望ましい通学方法について

①自転車で通学する

②公共交通機関等で通学する (スクールバス等も含む)

③その他 ()

問 6 (2) []

【通学経路について】

問 7

各学校区では, 主な通学経路が定められています。その経路についての質問です。

あなたの勤める学校の通学経路の問題点について (複数回答可)

①問題点はない

②道路や歩道の整備状況が悪い箇所がある

③車両の通行が激しい経路が存在する

④経路上, 地域住民の目が届かない箇所が存在する

⑤その他

「⑤その他」の場合は具体的に記入してください。

問 7 []

【余裕教室の使用状況について】

問 8 各学校では、児童生徒数の減少に伴い余裕教室（少人数学級・PTA 会議室等）が存在していることと思われます。その余裕教室の使用状況についての質問です。

余裕教室がなくなった場合の問題点について

- ①問題点はない
- ②問題点がある

生じる問題点を具体的に記入してください。（例：カリキュラムが成り立たなくなる等）

問 8 []

【学校施設の整備状況について】

問 9 本市の学校施設は、その多くが建設から長期間経過しています。
あなたの勤める学校における教育環境に関わる不具合についてお気づきの点があれば、具体的に記入してください。

教育環境の不具合に関して（複数回答可）

- ①不具合はない
- ②授業等に支障が出る不具合がある

- ③設備機器の不具合がある

問 11-2 []

- ・問 11-2 で回答して頂いた活動の内容で、日頃から感じておられることなどを自由に記入してください。

【その他ご意見があれば記入してください】

以上、ありがとうございました。